

平成24年度 第2回印西市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催日時 平成24年8月17日(金) 午前10時から
開催場所 印西市文化ホール 2階 多目的室
出席者 中澤浩二会長、上條公司副会長、山田敏文委員、戸村静夫委員、根本久子委員、津留崎隆史委員、小関征二委員、小林久男委員、瀬戸雅一委員、日比生則子委員、伊藤政之委員(代理 出澤眞由美様)、石井 隆委員、豊泉達樹委員、林 競委員、佐藤信之委員、池田和弘委員、金網昭夫委員、伊藤昌央委員(代理 井上照夫様)、山本大助委員
欠席者 遠藤和孝委員、岩崎英一委員、鶴岡敏明委員
事務局 企画政策課 鈴木課長、渡邊課長、酒井室長、山本、石鍋
傍聴者 株式会社長大 幸坂、田端
内容 3名

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 報告
 - (1) 実証運行変更後の利用状況について
4. 協議事項
 - (1) 市内バス路線網の現状認識と基本的考え方について
 - (2) 利用促進策のメニュー(案)について
5. その他
6. 閉会

(事務局) 会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。

- 会議次第
- 席次表
- 委員名簿
- 資料1 実証運行変更後の利用状況について
- 資料2 市内バス路線網の現状認識と基本的考え方について
- 資料3 利用促進策のメニュー(案)について

また、当日配布資料として、

- ふれあいバスルート図・時刻表 でございます。

資料の不備はございませんか。よろしいでしょうか。

1 開会

(事務局) 本日は、お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。それでは、平成24年度第2回印西市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。

2 市長挨拶

(事務局) 本日は、板倉市長が就任されてはじめての会議となりますことから、板倉市長より委員の皆さまにご挨拶申し上げます。

【市長あいさつ】

(事務局) 板倉市長ありがとうございました。大変申し訳ございませんが、市長は公務都合により、ここで退席させていただきます。

(事務局) ここで新委員1名をご紹介します。北総交通株式会社の株主総会におかれまして、代表取締役である唐澤委員が代表取締役を退任されたことにより、新たに北総交通株式会社常務取締役の伊藤政之様を委員に委嘱し、先日委嘱状を交付したところでございます。

また、任期でございますが、平成24年4月25日から平成25年7月26日まで、でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 本日、遠藤委員、岩崎委員、鶴岡委員におかれましては、所用により欠席されております。また、代理出席といたしまして、北総交通より出澤様及び千葉県交通計画課より井上様にご出席いただいております。そのため、本日の出席委員は19名で、協議会規約第9条第2項により成立いたしますことをご報告いたします。また、本日の会議につきましては、協議会規約第9条第4項により、公開とさせていただきます。なお、会議の傍聴でございますが、傍聴の申し出があり、入室していただいておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局) それでは、議題に入らせていただきますが、議事進行につきましては、中澤会長にお願いいたします。また、中澤会長には、当協議会会議運営規程第3条第2項の規

定により、本日の議事録確認者の指名をお願いします。

(会長) それでは、議長を務めさせていただきます。本日会議の議事録確認者については、豊泉委員を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

3 報告

(1) 実証運行変更後の利用状況について

(会長) はじめに、「報告事項(1) 実証運行変更後の利用状況について」事務局より報告をお願いします。

【事務局が資料1により説明】

(会長) ただ今、事務局から報告がございましたが、ご質問等ありましたらお願いします。

(会長) それでは、特にないようですので、先に進めさせていただきます。

4 協議事項

(1) 市内バス路線網の現状認識と基本的考え方について

(会長) それでは、「4. 協議事項」に入らせていただきます。はじめに「協議事項(1) 市内バス路線網の現状認識と基本的考え方について」事務局から説明をお願いします。

【事務局が資料2により説明】

(会長) ただ今、事務局から説明がございましたが、ご質問等ありましたら、お願いします。

(委員) 資料の2ページにありますコミュニティバスの導入に関するガイドラインは、平成22年度より前に出されており、本来これに従うべきものであります。「導入にあたっては、路線バスとの整合性に十分留意する必要がある」とガイドラインにあります。「検討するにあたっては、市町村と同一地域を運行する路線バス事業者とヒアリングすることが望ましい」となっています。これを踏まえて計画がされているはずですが、この点について説明して頂きたいです。

(事務局) 国のガイドラインとふれあいバスの関係ですが、基本的にはガイドラインに従ってやるところでございますが、国からの通知はあくまでも技術的助言ですので、ガイドラインに図りつつも印西市の地域の実情に合わせて進めて参りたいと考えております。今日は、国のガイドラインはこうなっていますと現状認識として説明したところです。ガイドラインはこうなっているから、これからのふれあいバスは、このようにしたほうが良い等のご意見を頂けたらと思います。

(会長) ガイドラインは尊重するが、今後進めていく上での認識ということで説明をさせて頂いたわけですね。

- (委員) ふれあいバスの運行している部分を解消したいとか、民間バス路線を活かしていくとか、その逆でもありうるととれてしまうが、実際はそういうことではないですね。民間と競合する場合は、ふれあいバスは削るということですね。
- (事務局) 国のガイドラインでは、民間路線と公的サービス路線が競合した場合は、民間路線を尊重していきましょうということです。
- (委員) 先ほどの事務局説明によると、その逆でも良いのですか。
- (事務局) 市では、逆を考えておりません。民間路線を優先ということで考えております。
- (委員) 市長が広報で「住民視線でもの事を実行する」といっておりますから、ニーズが第一ということでしょうか。財政の事とかで、そのようにいかないこともあるのでしょうか、市の税金の投入の仕方とかどうも説明がすっきりしていないように思えます。
- (事務局) 基本的には、民間路線を優先します。民間経営を第一にしていかないと、民間路線の撤退などで、全体的な市民サービスが懸念されてしまいます。民間業者と意見交換をしながら、現行の財政負担の中で、どういった充実が図れるかという観点から問題点等を説明しています。そういった中で改善点とか智恵を頂ければと思って、考え方を整理しました。
- (委員) 行政がどのようなスタンスでやっていくのか、市民優先でいくのか、事業者優先でいくのかをはっきりしておかなければならないと思います。市民の利益と会社の経営の問題もどちらも一堂に会しているのです、この会議でも議論しても良いのではないかと思います。利用者の意見をこの場で発言していただいて、事業者の方も発言して頂いて、この場である程度すり合わせをしていくという役割があると思います。民間路線とふれあいバスと地図上で重なっていると競合という認識だが、時間帯が違えば、むしろ補完しているのではないかと思います。大抵は、ふれあいバスと民間路線の時間帯が重なっているのが現状ですが、むしろダイヤをずらして、競合の関係を補完の関係に置き換えていくという発想も在り得ると思います。ふれあいバスが補完することにより、便数を増やしてサービス水準があがり、需要が加味されます。競合という単純な話に持っていない方が良いでしょうと思います。
- (会長) 只今、委員から市民側で考える、事業者側で考えるのかのすり合わせをこの場で意見を出し合った方が良いのではないかと。また、競合の問題は、時間帯が違えば良いのではないかと。ルートがダブっていれば競合ということも考えられるのではないかと。いろいろな意見がある中で、その辺を整理すべきではないかという意見でした。このことについて、事務局の方、この会議でということを考えていましたか。
- (事務局) 市民側、事業者側、学識経験者、行政側の意見をこの場で頂いて、もし意見がぶつかるようでしたら、まさにこの会議で問題を解決していく所と考えております。
- (委員) もともとは、日本は民間路線で公共交通を維持している世界的にみて珍しい国です。人口密度が高くて民間でも採算性があり、維持が出来ていたのです。最近マイカーが普及して、乗客が減って幹線以外は路線を維持するのが難しい状況です。そうい

うことから行政指導があって、地域全体で公共交通を補完していくという流れが現状です。一番良いのは、税金を使わないで民間バス中心にやっていくのが望ましいのですが、難しい。ふれあいバスやコミュニティバスの運行で市民の皆様の足を補完するというのが私どもの認識です。

(会長) 民間を補完するふれあいバスが良いのではないかという意見で良いですか。

(委員) はい。

(会長) そのほかございますでしょうか。今はなくても、後で事務局にご意見を頂ければと思います。それでは、次に進めていきたいと思います。

(2) 利用促進策のメニュー（案）について

(会長) つづきまして「協議事項（2）利用促進策のメニュー（案）について」事務局から説明をお願いします。

【事務局が資料3により説明】

(会長) 只今説明がありました。ご意見等ありましたらお願い致します。

(委員) 環境、安全性、健康ということで書いてありますが、環境という面ではCO₂の排出量が少ない方が良いのは決まっています。この地域に合う具体的なメリットを出してもらいたいです。国のデータでみれば、バスの排出量は鉄道の2.7倍、自家用車はバスの2倍であります。鉄道や飛行機もある中であえて自家用車と比べているが、皆がその気になりそうな具体例を出してほしい。これだととんでもないという意見も出かねないと思います。千葉県は事故ワースト5位で印西市の自動車事故が多い。通常20代が多いが、印西市は50代以上が50%以上、60代以上が40%以上と特に高齢者運転の事故が多い。免許を返せばこういうメリットがあるということを検討してほしいと思います。返せば公共交通利用者が増えます。具体的な話として出してほしいです。もう一つは、健康ですね。自家用車に乗るよりは、バスを利用すると体の消費量が多い。例えば1時間あるいは1キロ歩くと缶ビール1本分の消費量が多い。そのような話題になりそうなことを調べて載せてもらいたいと思います。

(事務局) 記事の内容につきましては、印西市の実情に合わせ、より具体的な内容となるよう検討して参りたいと考えております。また、免許を返すと利用促進ができる施策につきましても調査研究して参りたいと考えております。

(委員) 環境問題で自動車のCO₂排出量ですが、現実的に走っているバスに乗客が一人増えても排出量は増えない。「プラス0」という表現をしたらおもしろいかなと思いました。

(会長) 確認したいのですが、NO₁は実施済みですが、NO₂・3・4・5とありますが、広報掲載の順番はこの順番でいくのですか。便利な使い方を先に掲載したほうが良いなど

意見が出てくると思うのですが、順番については、いかがですか。

(事務局) 季節性、その時の話題性に依じてテーマを考えていきたいと思っています。この順番で掲載するのではなく、便宜的に並べたものとご理解ください。

(委員) あまり利用促進という形でピンとこないです。1番目は利用促進で有効だと思えます。それ以降は、便利な使い方となると利用促進に有効であるが、それ以外この路線はどうだとか。この路線を使うと買い物に便利であるというPRの仕方があった方が良いでしょう。そのような形で考えられたらどうでしょうか。

(事務局) 確かにテーマが大きくて抽象的な所もあるかなと思いました。印西市にはふれあいバス、民間路線バスなど含めて、いろいろなバス路線があります。これらのバスを全体的に紹介すれば公共交通の促進になりますので、具体的な記事もこれから考えて参りたいと思います。

(会長) 他にご意見等ございますか。後で何かご意見を思いつきましたら、事務局に頂きたいと思います。
特にないようですので、以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました、議事進行にご協力をいただき、ありがとうございました。それでは会議進行を事務局にお返しします。

5 その他

(事務局) 本日の会議の報償でございますが、ご指定の金融機関に後日振り込みによりお支払いいたします。次回の会議の予定でございますが、11月の下旬ごろを予定しておりますので、ご出席の程どうぞよろしくお願い申し上げます。事務局からは以上でございます。委員の皆さまから何かございますか。

それでは、以上をもちまして、「平成24年度第2回印西市地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。長時間にわたり慎重審議、誠にありがとうございました。

平成24年度第2回印西市地域公共交通活性化協議会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成24年 9 月 10 日

委員

豊 泉 達 樹